



東部教育事務所社教便り『社窓』

No.28 (平成27年2月)

所在地：安芸市矢ノ丸1-4-36

TEL：0887-34-3591 (百々)

FAX：0887-34-3592 (前田)

E-mail：310304@ken.pref.kochi.lg.jp

第63回高知縣市町村対抗駅伝競走

室戸市～安芸市 46.5km



第63回高知縣市町村対抗駅伝競走(安芸郡市体育会主催、高知陸協・高知新聞社・安芸郡市町村教委連絡協議会共催)が1月25日(日)、室戸～安芸間の前後半計8区間46.5kmで行われました。

当日は絶好のレース日和の中、参加した41チーム(25市町村)はそれぞれの目標に向かって懸命にタスキをつなぎ、例年通り見どころの多い大会でした。結果、前後半をともに制した香南市Aが5連覇を果たし、2位は南国市A、3

位は高知市Aと上位は昨年と同じチームとなりましたが、8区間中、6区間の区間賞をとった香南市Aの強さが際立った大会でもありました。なお、香南市Aの山本選手は、チームの強さを「中学、高校、一般の固い結びつき」と語り、日々の練習からチームが一丸となつてつかんだ優勝を高知新聞では「結束のたすきリレー」と称していました。



今回、大会運営に携わってくれたスタッフは約200人でした。安芸郡市体育会を中心とした競技スタッフや関門スタッフ、安全対策に尽力してくれた交通指導員や警察関係者、さらに、選手の更衣などのために地元公民館等の開放やトイレを快く提供してくれた地元の方々など、沢山の地域ボランティアにも支えられ、大会を無事に終えることができました。

また、田野町の手旗応援や安田町のゆるキャラ・楽器演奏など地域の熱い応援も目立ちました。そんな応援を受けて懸命に走る選手の姿はとても力強く、沿道の皆さんが「おらが町の代表選手」を誇らしげに見守っている様子も印象的でした。

「選手はもちろん、関係スタッフや地域をあげて協力してくれる人たちのおかげで、大会が長く続いているんだ」と実感させられた第63回大会でもありました。

【高知縣市町村対抗駅伝競走の歴史】

この駅伝競走大会は、今年で63回目です。なんと半世紀以上も続く、地域に根ざした地域スポーツの一大イベントなのです。

大会の始まりは、安芸AC（安芸アスレチッククラブ）が当時の高新駅伝競走で5連覇を成し遂げ、6連覇を目指し、新人発掘のために企画しようとしたのがきっかけだったようです。そんな思いで昭和28年3月に12チーム（安芸郡外4チーム）の参加による「町村駅伝」としてスタートしたこの大会も、回数を重ねる中で市町村関係者の賛同、支援を得て、ピーク時には47チーム（第54回大会）の参加を得るなど県内最大の駅伝競走に成長発展してきました。

この長い歴史の中には、毎年繰りひろげられる名勝負、多くの名ランナーの激走などが刻まれています。その栄光の記録の数々がこの大会を成長させてきたことはいまでもありませんが、毎年、大会を陰で支えるスタッフの努力や地元の方をはじめとした沿道の熱烈応援、また、古くからの駅伝ファンの声援も大会成功の大きな原動力になっています。

第33回東部美術展・第28回ふるさと名勝写真展



平成27年1月30日（金）から2月2日（月）まで、東洋町社会福祉センターにおいて、安芸郡市文化協会主催の美術展・写真展が開催されました。

この美術展は、芸西村以东の9市町村に在住する美術愛好家の作品を集めたもので、本年度は168点が展示されました。また、東洋町が会場ということで「野根山二十三士」野根山事件150年の貴重な資料集の展示もあり、大変盛会でした。

日本画の部は四季をテーマにした作品、洋画・写真の部では、県東部の特徴を生かした夕陽や海、漁といった作品が数多く展示されており、地域の魅力を上手に表現したものばかりでした。

また、彫塑・工芸の部では、竹細工や陶芸と言った伝統工芸の素晴らしさを感じる作品が数多く展示されていました。その他の部門でも、県東部の見所や自然を自由に表現した作品がたくさん展示され、来場者の目を楽しませてくれました。

来年度は、芸西村を会場として行われます。ご期待ください。

